

大項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善改善に向けて			
		小項目	中項目	中項目	意見・提言等				
1 学習をつくる	(1)授業改善	①支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践 (1-1) ②協同する体験、伝え合う喜び、コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (1-2) ③学び合いを追求する授業研究会や研修会 (1-3)	A B A	A	A	・参観日の子ども達の様子が、雰囲気がよく、授業態度も良かった。児童生徒が学級に2、3人という状況はどうにもできないが、プラス面もあり、マイナス面もある。 ・子どもが授業で自分の得意なことを教えるというのは、とてもいいことだ。 ・参観日の会などの短い時間でも継続的にドリルを行うことは、子ども達の良い習慣づけになる。 ・子ども一人ひとりの理解度に合わせたきめ細かい指導がよくなってきている。	・少人数であるため教師が面倒を見ずける傾向がある。できる限り、児童生徒の自主性に任せて、自分で考え自律的に判断する力をつける必要がある。 ・文化祭では地域の伝統的工芸を受け継いでいけるような内容を取り入れる必要がある。 ・「学び合い」については、小中合同校内研究会の中心的課題として、今後も推進する。		
	(2)基礎基本の徹底	①学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善 (4-10) ②朝の読書や読み聞かせ、すくすく算数・補充学習の実践	A A	A	A	・(小)継続した取組により少しずつ子どもに力が付いてきた。また、子ども達の選本のレベルが上がってきた。 ・(中)授業で基礎ドリル(計算、漢字、単語)や前時の学習確認を徹底した。また、毎日の「帰りがけ」により基礎基本は定着してきた。			
	(3)小中連携の授業づくり	①教科及び生活全般の中で、子どもが楽しく学び合うための実践を連携してなれ、育てたい子どもの力が身についている ②子どもの校種間交流や教員の出前授業 (5-②-16) ③校種間の合同研修会 (5-②-17) ④校種間の授業公開、カリキュラム研究 (5-②-18)	B A A A	A	A	・(小中)運動会、文化祭を児童会と生徒会が合同で企画・運営し、子どもたちの主体的な姿勢が育ってきた。また、算数・数学(年間)、体育、社会(学年学習)等により、定期間、中学校教員の出前授業や合同授業が実施できた。KTふれあいの輪」や地域清掃に、小中連携し取り組んだ。中学校の総合学習発表会を、小学校6年生が参観した。教師も子どもも連携を大切にしている意識がある。	・学び合いの取り組みは葛川小中学校にはとても合っている、良い方法だと思う。 ・小中が一緒に学ぶ合同体育等の授業では、小中学生がお互いに良い刺激を受けて、関心を高めたり、下級生への配慮などについて新たな気づきや成長を感じられたりする良い機会である。		
2 学習を支える	(1)生徒指導	①思いやりの心や社会のルールを守ろうとする態度を大切にしている ②気持ちのよいあいさつができています ③きまりを守り、落ち着いて学習できる ④友だちと楽しく元気に遊ぶことができる ⑤良いことや悪いことについて指導がされている ⑥いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 (6-①-19) ⑦生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 (6-①-20) ⑧6つの約束の徹底(家庭・地域・関係機関との連携による指導) (6-①-21)	A B A A A B A B	A	A	・(小)毎日、職員室で子どもたちの姿を話し合い、全員で連携をとって生徒指導ができています。いじめ予防に全職員が意識的に取り組んでいます。また、異年齢交流により、友だち関係、ルール、思いやりの心が学べている。あいさつは、声、態度ともにもう少しである。 ・(中)担任一人任せにせず、全員で組織的に生徒の指導に当たっている。生徒は思いやりの心を持ち、まじめに、落ち着いた学校生活を送っている。あいさつは、本校生徒指導上の課題である。	・あいさつ運動では、地域の多くの方が参加しており、学校と地域の良好な関係づくりにできていると感じる。 ・子ども達は地域に帰ってよあいさつしている。姿勢がよい。 ・子どものOSを見逃さないよう、日常の態度などに十分な気配りを願っている。	・あいさつは心と心のふれあいの第1歩といわれる。これを大切にしなげら、心の通う生徒指導を推進する。 ・命の大切さや社会のルールについて熱心に教え、児童生徒に十分な配り、気配りをする。 ・職員間連携、学校と家庭の連携、学校・家庭・関係機関の連携の中で、更に子どもの健やかな成長を育む。	
	(2)環境教育	①環境教育について共通理解して実践に努めている	A	A	A	・(小中)小中合同の積極的な地域清掃、学校林活動に伴う森林保全、小学校で外部講師による学習等を行った。	・学校林活動や地域清掃は、葛川ならではのよい取り組みである。また、地域愛を深めるよい機会でもある。	・学校林活動や地域清掃は更に改善を加える。また、「栽培活動」や普段の「掃除」とも関連させる。	
	(3)特別支援教育	①個別の指導計画の作成と活用 (6-②-22) ②組織的・計画的な特別支援体制の確立 (6-②-23) ③関係機関と連携した相談体制の充実 (6-②-24) ④特別支援教育について、共通の姿勢で実践に努めている	B B B A	B	B	・(小)関係機関との連携は図っている。一人ひとりの子どもの様子は把握できているが、個別の指導計画の引継ぎ、更新、活用が十分にできていない。 ・(中)巡回訪問を受け、その助言をいかし、個別の指導を行っている。個別の指導計画の更新ができていない。	・子どもの課題についての共通理解と関係機関との連携はできている。	・個人の発達課題や見とれを大切にして、関係機関との連携の中で子ども一人ひとりの発達支援を一層進める。	
	(4)道徳教育	①生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施 (2-4) ②道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流 (2-5) ③保護者等への道徳の授業公開 (2-6)	B B A B	B	A	・(小)道徳の参観授業や指導案の検討や掲示物作成を通して、道徳教育の充実を図った。資料の開発はあまりできなかった。 ・(中)担任が副読本を中心教材とし資料、題材を工夫した。新しい資料の開発、交流はやや不十分であった。	・思いやりの心をもった児童生徒をこれからも育ててほしい。 ・命の授業は子ども達にとって一番大切な授業だと思う。 ・卒業してから大人になって、しっかりした考えをもてる人になってほしい。	・職員研修を充実させ、更に心の教育の充実にも努める。道徳教育を推進し、命を大切に人を思いやる心を育む。	
	(5)体力づくり	①たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善 (3-7) ②体力づくりを推進する運動実践 (3-8) ③体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成 (3-9)	B B A	B	A	・(小)休み時間を利用してマラソン、縄跳び等により、体力づくりに努めた。今後は魅力ある授業の工夫に力を入れている。 ・(中)授業の初めにトレーニングを工夫し、意欲と体力向上を図っている。また、部活動を体力づくりに活かしている。小6の部活体験を月2回程度行い児童の運動意欲と体力向上の一助となっている。	・バス通学であるため歩くことが少なく(特に冬期)、その分体力向上が課題であるが、それを補う取り組みができています。 ・小中が隣接している利点を生かした取り組みができています。 ・部活動は地域のOB、OGと連携すればよい。	・小中が連携し、運動に対する子どもの興味関心を高める中で、体力向上の取り組みを進めていく。	
	(6)人権教育	①人権教育について、共通理解して実践に努めている ②国際理解教育について、共通理解して実践に努めている	A B A	A	A	・(小)人権週間に合わせて、標語づくりや集会を行った。職員研修を充実させた。国際理解教育は外国語授業で行った。 ・(中)例年、外部講師(本年は滋賀県人権センター、JICA)を招き、推進している。	・ケーススタディ等、教材の与え方や意見集約の手法を工夫されている様子がわかりました。人権教育については「人権協」との協力を考えてほしい。 ・人権課題の1つ「高齢者の人権」については、老人クラブとの話し合いもできる。	・様々な人権課題を取り上げ人権感覚を磨き、中学校卒業後に役立つ人権教育を推進する。外部講師を招聘し、人権学習を深める。	
	(7)キャリア教育	①働くことの意義を感じる職業体験学習を行う。	A	A	A	・(小)6年生の「夢プロジェクト」やパナソニック工場見学によりキャリア教育を充実させた。また、児童会の活動をを通して、子どもの主体性がでてきた。 ・(中)職場体験(5日間の)前に外部講師を招き、体験の目的を意識づけた。また、生徒は自分たちでアイデア出し、生徒会活動を充実させた。	・「夢プロジェクト」は身近な人の仕事、その思い、取り組んでいる様子が体験できるともよい企画である。職場体験は学区を越えた取り組みがされていると感じた。児童生徒会が積極的に地域の中に入っていくことは素晴らしい。	・児童生徒の自立に向けて、小中の発達段階を考慮し、見通しを持ってキャリア教育を進める。 ・児童生徒会からの自主性や主体性を重視した取り組みを推進する。	
	(8)特別活動	①子どもの主体性・積極性を育む実践に努めている	A	A	A				
	3 学校をつくる	(1)安全な学校づくり	①防災教育の推進と安心・安全な学校づくり (5-①-15) ②児童生徒が健康で安全な生活を送るための基礎的な知識や生活習慣を身につけるよう家庭と連携しながら適切に指導している	A A B	A	A	・(小・中)砂防ダムの見学と学習、防災ヘリを招いた地域合同防災訓練、外部講師を招き安全意識の高まった。児童生徒の安全意識が高まった。	・「KTふれあいの輪」でも防災マップ作りを取り組んでおり、地域の自主防災の大切さを学んでいる。	・地域の特性にあった防災学習について、関係機関と地域と更に連携し工夫改善していく。
		(2)役割と責任(組織的・計画的)	①教職員の指導力及び3・3・3の2原則に立った組織的な教育力の向上 (4-11) ②ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善 (4-12) ③円滑な学校経営のために必要な校務分掌を検討し、位置づけ、担当者が責任と役割意識をもてるようになっている。	A B A A	A	A	・(小)教職員間で連携をとり、また、全担任が研究授業を行い、全体の教育力が上がった。校支援システムを導入により、作業効率が上がったが、十分にICT活用はできていない。 ・(中)ICT活用により事務効率が上がった。また、授業や生徒会活動等に有効利用している。適材適所による校務分掌により、担当がスムーズに仕事を進めている。	・ICT活用は教職員が作業効率を上げるためには有効であるが、子どもが積極的に使うような学習形態は時期尚早ではない。 ・教職員の仕事については、この調子で進めてほしい。	・小中学校教職員一人ひとりが、児童生徒数・職員数が少ない本校の特徴を理解した上で、その役割を自覚し、責任を持って業務を進める。
(3)地域と共に		①保護者の子育てに対する積極的な支援 (5-①-13) ②保護者の悩みを聞く個別相談の実施 ③保育園との交流・連携 (小)低学年との交流、5-5交流、保小連絡会 ④保護者・地域との交流や情報発信・参観・懇談会・研修会の実施、地域人材の活用 (5-①-14) ⑤教育方針や学校の取り組みをわかりやすく伝えていく ⑥運動会・紅葉祭・授業参観は、参加しやすいように設定されている ⑦地域の「もの・ひと・こと」を積極的に授業に取り入れている	B A A A A A	A	A	・(小)保護者、地域の方と接する機会がイベントを通して多くなり、学校教育に積極的に関わって頂いている。今までの連携の積み重ねが「学校便り」「かけはし」等地域への発信によるものである。葛川の人、地域の特性をいかした取り組みが多く行われていることと理解できました。 ・(中)体育祭や紅葉祭、KTふれあいの輪等行事を中心に地域と密着した取り組みができています。また、教職員も地域の行事に積極的に参加している。地域の方に技術、美術で指導をしていただいた。保育園とも行事や家庭科保育実習、合同給食等交流、連携している。	・地域の人とのふれあいはその機会も多くよい状況である。 ・地域と連携して防災について考えるというのは、たいへん良いことで、たのしく、とてもうれしかった。 ・地域コーディネーターのおかげで、年間を通して地域との交流が多く行われていることが理解できました。 ・今後も地域の協力のもと、地域全体で子どもたちの成長を見守り、育てていきたい。 ・「KTふれあいの輪」等でも出された生徒、児童の提案について、地域住民と共同で実現できるような機会をつくる必要がある。	・地域と連携し、学校支援の新たな人的資源を発掘する。 ・地域の中、学校としてその役割を果たしていく。 ・「ゆるキャラ」「防災マップ」を、地域のために役立てるよう、学校や生徒会が地域に働きかける。 ・「KTふれあいの輪」は、この活動を継続する。	
学校満足度		児童生徒の学校満足度	B	B	概ね達成と考へる	A	子ども達の表情が明るい。あいさつもできてきた。		